

共同体育館整備に係る意見聴取会議 委員意見概要

- ・先週、学生意見を聞いた。ワークショップ案（2千人規模）を学生意見としたい。年明けに教員の意見も聞いて、大学としての要望を府に出していきたい。すぐに設計は無理なので、せめて計画策定のための予算措置を切に願います。
- ・学生案は学生視点から実用的な案。地域や学生のスポーツ大会など、学生中心に範囲を広げられるとよい。学生意見をすべて盛り込むと予算が足りない可能性がある。現実的な落としどころを探ることも必要。動線を考えると府大では1万人アリーナは難しいが、向日町では議論ができる。
- ・府大体育館では競技団体が望むものを整備することは無理。競技団体としてはどちらからではなく、府大体育館では学生のスポーツで使用するなど、どちらも特性を生かした使い方ができればありがたい。
- ・学生意見を取り込むことができたことは大きな成果。トイレやシャワーなど、付帯施設もユニバーサルデザインが求められる。
- ・具体的な体育館の姿が見えてよかった。地域に開かれたものとするために、具体的な運用の方向性も検討して欲しい。情報技術は進化していくので設備等は可変性を持たせた方がよい。
- ・現在の問題解決のための体育館整備は近視眼すぎる。20～30年先を見据えて一度は大規模災害が起きることを想定して使えるものを検討すべき。地域の防災資源の一部を体育館で持つことや、耐震・耐水のインフラ整備が重要。
- ・ここで1万人規模は現実的でなく、教育機関としてスピード感をもって施設整備していくべき。地元木材の利用など、環境面で先進的な整備ができるとよい。
- ・府大が主体となり、地域との関係等を考えていけるとよい。教員にも意見を聞き、共同体育館だけでなく、大学キャンパス全体を考えていく必要がある。
- ・都計審を通すと時間かかるので、学校施設として用途変更がいない前提で進めるとよい。あり方懇や本会議など、外部委員会に外部委員会を重ねているが、共同体育館の検討状況を府民・地域の方に広く周知・共有するべきである。